

令和8年度 日本災害医療薬剤師学会 役員選挙 立候補者一覧

【理事候補者】

| NO | 立候補者氏名            | 会員番号 | 都道府県 | 所属                              | 生年    | 趣意書  | JPSDR役職歴  |
|----|-------------------|------|------|---------------------------------|-------|--|---|
| 1  | 和泉 邦彦<br>いすみ くにひこ | 0199 | 愛知県  | 藤田医科大学医学部<br>地域医療産学連携<br>共同研究講座 | 1971年 | 教育・研修委員会委員長として、web版研修コースを整備し、公衆衛生ニーズやローカライゼーションの流れを踏まえた学習機会の提供体制を構築しました。また教材のブラッシュアップに向け、事例検討委員会担当理事として検討会やシンポジウムを開催し、その成果を学会の活動に反映してきました。上記の活動サイクルの本格稼働に向け、理事としてもうひと頑張りさせて頂きたく存じます。どうかよろしくお願ひ致します。  | 理事、事例検討委員会担当理事<br>教育・研修委員会委員長、学術委員会委員<br>第9回学術大会大会長<br>第4回シンポジウム実行委員長 |
| 2  | 江川 孝<br>えがわ たかし   | 0126 | 福岡県  | 福岡大学<br>薬学部                     | 1964年 | この度、引き続き日本災害医療薬剤師学会の理事に立候補させていただきました。現在、当学会の副会長としての活動をさせて頂いております。災害研修に関しては厚生労働省事業の災害薬事コーディネーター研修を全国で開催し、ウクライナ避難民に対する医療活動やミャンマー地震に対する医療活動を行った実績があります。さらに、それらの薬事活動から得られた知見を国際学会や論文にまとめて広く社会に情報を発信しています。<br>これらの経験を、日本災害医療薬剤師学会の活動を意識して広めていくために微力ながら引き続き働くことが出来ればと考えております。  | 副会長<br>教育・研修委員会 委員<br>事例検討委員会 委員<br>国際交流委員会                           |
| 3  | 恵谷 誠司<br>えや せいじ   | 0012 | 山口県  | 山口東京理科大学<br>薬学部                 | 1963年 | これまでの災害において、薬剤師は、その職能を様々な場面において発揮し、現在では災害医療支援活動等において欠くことのできない存在となっている。そのような状況下、薬学教育コアカリキュラムに災害医療が盛り込まれているが、現状は十分な教育がなされているとは言い難い。貴学会の活動に積極的に関わり、薬学教育、薬剤師卒後教育等において災害医療支援に対応できる人材育成、啓発等に努めたいと考え立候補した。  | 現理事   |
| 4  | 大川 恒子<br>おおかわきょうこ | 0207 | 兵庫県  | 武庫川女子大学<br>薬学部                  | 1959年 | 1995年1月17日自ら開局している薬局のある地元神戸で経験した阪神・淡路大震災を機に、災害時支援への薬剤師の関わりの大切さを身をもって体験し、災害大国と言われる我が国において、今後、薬剤師として、平時より何を備え、発災時に医療者や地域の薬局・他施設・行政等とにかく連携を図り、支援活動をおこなっていくべきかを共に考えていきたく入会。昨年は、その阪神淡路大震災から30年という節目に地元で学術大会を開催させていただき、改めて時代の変遷と共に我々の今後の活動の在り方を考える機会となった。大学の薬学部のコアカリにおいてもようやく学部教育での学びの重要性が示され、実務部分での貢献が期待されている。その一助に携われればと立候補する。 | 理事（2018年～2025年）<br>副会長（2022年～2025年現在）                                 |
| 5  | 荻田 義明<br>おぎた よしあき | 0130 | 神奈川県 | 横浜市立大学附属市民<br>総合医療センター          | 1975年 | 近年の災害発生増加や厚生労働省の第8次医療計画に「災害薬事コーディネーター」の文言が明記され、災害時の薬剤師に対するニーズ、災害医療薬剤師学会への期待も高まっています。2023年に本会理事に立候補させていただき、2年間理事を務めました。継続して会員の皆様とともに、災害時の医療における薬剤師の活動の幅を広げ、全ての薬剤師に災害時の医療を学ぶ機会を設けることを担わせていただきたいと考えます。  | 研修委員会（2018年～現在）<br>理事（2023年～）<br>研修委員会担当（2023年～）                      |
| 6  | 加藤 あゆみ<br>かとう あゆみ | 0007 | 千葉県  | 日本医科大学<br>付属病院                  | 1964年 | 当学会は現在のところ、研修を主軸とした本来の活動方針が軌道に乗り、併せて学術大会や実災害への対応を検証するシンポジウム、他団体との連携など発展してまいりました。コロナ期を乗り切り、学術大会に次いで研修会も対面での活動再開を検討するところであります。設立当初から運営に携わった者として、引き続き当学会の発展に寄与しつつ、後任を育成する責任を感じており、次期役員に臨む所存です。  | 会計担当（2009年～2015年）<br>総務委員会（2016年～現在）<br>広報委員会（2024年～現在）               |

令和8年度 日本災害医療薬剤師学会 役員選挙 立候補者一覧

【理事候補者】

| NO | 立候補者氏名            | 会員番号    | 都道府県 | 所属                              | 生年    | 趣意書   | JPSDR役職歴                                      |
|----|-------------------|---------|------|---------------------------------|-------|---|---|
| 7  | 小林 映子<br>こばやし えいこ | 0 0 0 9 | 東京都  | 日本赤十字社<br>医療センター薬剤部<br>・国際医療救援部 | 1975年 | これまで、国内外で緊急救援やFIP等での国際議論、多国籍現場での経験、災害教育の実践を通じて知見を往還させ、日本の薬剤師の活躍を世界に発信する橋渡し役を担ってきた。今後も、本学会を災害医療における薬剤師の専門性を深化させ、教育・研究・実践の三位一体を強化する唯一無二の学術組織として発展させたい。また、災害薬事の標準化、人材育成、多職種連携、国際視野を備えた薬剤師育成に尽力する所存である。   | 理事（～2018年頃）<br>現副会長                           |
| 8  | 鈴木 康生<br>すずき やすお  | 0 0 4 6 | 埼玉県  | アイアルファーマシー<br>株式会社              | 1977年 | 日本災害医療薬剤師学会の理事として、災害対応に関する知見を深め、研修で得た学びを実務に活かすことを心がけてきました。調剤薬局薬剤師として地域の方々と接する中で得た経験を、今後の災害医療における薬剤師の役割強化に結び付けたいと考えています。学会の発展に寄与するべく、引き続き立候補いたします。   | 理事（平成30年～現在）                                  |
| 9  | 瀬戸 弘和<br>せと ひろかず  | 0 0 1 3 | 静岡県  | 伊東市民病院                          | 1977年 | 学会創設時より理事に就任し、会の運営を通じ災害医療の普及に努めてきた。理事の再任が認められた場合、災害医学会などをはじめ様々な学会や機関と連携を図ることで広い視野を持った薬剤師の育成を目指し、災害時に活動できる薬剤師を増やしていくたいと考えている。研修のあり方なども含めて体制を検討し、多くの会員が災害医療を特別なものではなく日常の中にあるものとして学んで頂けるよう尽力していきたい。  | 理事（2006年～）<br>研修委員会、ホームページ委員、総務<br>第7回学術大会大会長 |
| 10 | 高岡 由美<br>たかおか ゆみ  | 0 4 0 1 | 大阪府  | やまき薬局                           | 1963年 | 行政薬剤師として、実災害対応やしくみ作り（大阪府DPATの立ち上げ、COVID-19における医療体制の構築、薬学生や薬剤師会等への災害研修の実施など）に取り組んできました。公務員退職後は、臨床の現場で地域連携のもと、研修会を実施する等より広範囲に知識の周知に努めてきました。今後も、行政と現場のつなぎ役として、本学会理事として、尽力していきたいと思っております。   | 理事（2022年～）<br>教育・研修委員会、認定委員会担当                |
| 11 | 高橋 文章<br>たかはしふみあき | 0 0 4 4 | 宮城県  | 宮城県薬剤師会                         | 1966年 | 安全で有効な活動ができるように、頻度を増している災害派遣に対応するためには従来の方法では対応困難となってきている。また、共通の認識基盤なしに任務達成は困難である。<br>研修訓練により技量の向上、関係機関との相互理解の増進、信頼関係の強化を図ることにより不測の事態に対する対応能力の向上に寄与すると考える。   | 理事<br>研修委員                                    |
| 12 | 多田 治<br>ただ おさむ    | 0 0 0 1 | 東京都  | 有限会社多田薬局                        | 1953年 | 2004年に発生した新潟県中越地震に東京都薬剤師会の会員としては最も早く現地入りして救援活動に参加し、翌年に広島で開催された第38回日本薬剤師会（以後日薬）の学術大会分科会でシンポジウムの座長兼コーディネーターを務めた事を切に薬剤師の災害医療に関する学会の設立を発案してシンポジストとして参加した方々の賛同を得て日本災害医療薬剤師学会の設立する事にしました。翌年の2006年4月23日に設立総会を開催して正式に発会しました。今でこそ日薬学術大会で災害医療の項目もテーマの一つに挙げられます、その起りは本学会の設立が起因していると言つても過言ではないと思います。設立者の一人として本学会の行く末を見続けていたいと理事に立候補致しました。 | 専務理事<br>副会長<br>理事                             |

令和8年度 日本災害医療薬剤師学会 役員選挙 立候補者一覧

【理事候補者】

| NO | 立候補者氏名            | 会員番号 | 都道府県 | 所属                           | 生年    | 趣意書  | JPSDR役歴   |
|----|-------------------|------|------|------------------------------|-------|--|---|
| 13 | 辻野 悅次<br>つじの えつじ  | 0321 | 大阪府  | 大阪府健康医療部<br>生活衛生室            | 1977年 | 薬剤師の職能を活かし避難所における対物公衆衛生に関わることが必要であるとかねてより提唱し、令和5年に当学会教育・研修担当理事を拝命いただいたのちは、避難所公衆衛生に関するプログラムを作成した。また、支援薬剤師研修をより多く受講いただけるよう、Web開催とし、大規模災害時により多くの薬剤師が能力を発揮するため取り組んできた。引き続き、行政薬剤師の視点を活かし連携の架け橋となるために取り組んでまいりたい。 | 理事（教育・研修担当：令和4～5年度）<br>理事（教育・研修担当：令和6～7年度）<br>令和7年度学術大会実行委員長  |
| 14 | 根本 昌宏<br>ねもと まさひろ | 0296 | 北海道  | 日本赤十字北海道<br>看護大学             | 1970年 | 災害医療は阪神淡路大震災以降、数多くの災害を経て目覚ましい進歩を遂げました。しかし避難した後、長期間続く避難生活の中で健康を損なわれる事案が続いています。私は極寒の地を用いた避難所環境の検証を進めてきました。公衆衛生の観点から、薬剤師が避難環境の整備を実践することは理にかなっていると思います。日本の災害対策に資する本会の活動に、微力ながら貢献させて頂きたいと考えております。               | 理事（2022年～2025年）<br>第11回学術集会大会長<br>広報委員会委員長  |
| 15 | 林 秀樹<br>はやし ひでき   | 0113 | 岐阜県  | 岐阜薬科大学                       | 1973年 | 私は本学会の「東日本大震災1周年復興祈念研修会」において、本学会理事であった故・近藤剛弘博士に誘われ本学会に入会し、近藤先生の思いを引き継ぎ、第6回学術大会を岐阜で開催させていただきました。今後は、学術団体としての学術面を強化するため、災害薬事に関する新技術開発や新規エビデンスの発信などを積極的に推進し、本学会が国内外の災害薬学関係者の中で重要な役割を果たせるように努力したいと考えています。      | 第6回学術大会大会長（2016年）<br>理事（2016年～現在）<br>副会長（2022年～現在）<br>編集委員会委員長（2016年～2021年）<br>ホームページ委員会委員長（2016年～2021年）<br>学術委員会委員長（2021年～現在）<br>事例検討委員会委員（2021年～現在） |
| 16 | 藤江 直輝<br>ふじえ なおき  | 0478 | 大阪府  | 大阪府立病院機構<br>大阪精神医療センター<br>薬局 | 1985年 | DMATとして長年災害医療に従事し、地元薬剤師会では地域の災害医療体制の整備に取り組んでまいりました。現在はDPATの一員として精神科災害医療にも携わっております。薬剤師としての専門性と現場経験を生かし、本学会の発展と実践的な災害医療体制の強化に貢献したいと考え、立候補いたします。  | 教育・研修委員会委員（2022年～）  |
| 17 | 渡邊 晓洋<br>わたなべあきひろ | 0006 | 埼玉県  | 兵庫医科大学<br>危機管理医学講座           | 1974年 | 現在、災害医療・薬事の現状は多職種の連携、多機関との連携が必要であり、多くの外部との連携を今後も広げていきたい。また、教育・学術・実践これを学会として実現するべく、委員会活動を推進していく。学会の主事業である研修事業も対面で行うことのできる体制を作っていくたい。新たな取り組み、学会員の多くのご協力・参加が得られるような参加型の学会運営と学生が学会に関われる仕組みを進めていきたいと考えております。    | 理事<br>副会長<br>現会長  |